

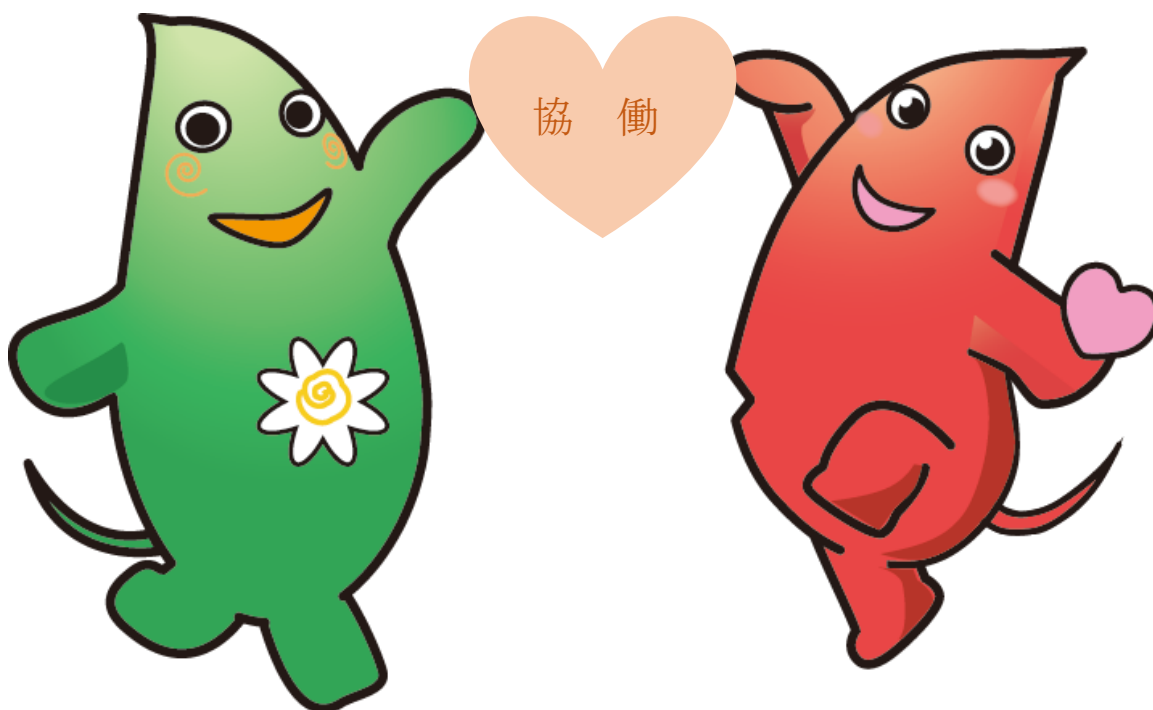


市民活動のサポートマーク「あの手この手」
Solution(解決)のSを表しています。

令和7年度

大和市

協働事業活動報告書



大和市イベントキャラクター ヤマトン・ハートン

大和市 つながり推進課 / 大和市民活動センター

令和 7 年度実施 協働事業一覧

◆令和 6 年度提案事業（令和 7 年～9 年度実施予定事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
1	ふれあいの森ドッグラン運営管理	市民 提案型	結の会／ みどり公園課	1
2	地域で支え合う「のりあい」を走らせよう	市民 提案型	地域と市との協働「のりあい」／ まちづくり総務課	4
3	生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つまみ読み書きの部屋」	市民 提案型	NPO 法人かながわ難民定住援助協会／国際・市民共生課	8
4	地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業	市民 提案型	渋谷きんりん未来の会／ 図書・学び交流課	11
5	移動制約者の外出介助サービス事業	市民 提案型	NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる／障がい福祉課	15
6	移動制約者の外出介助サービス事業	市民 提案型	NPO 法人たんぽぽ／ 障がい福祉課	19
7	みんなで作ろう安心のまち事業	行政 提案型	大和女性防犯会／ 市民生活あんぜん課	22

◆令和 5 年度提案事業（令和 6 年～ 8 年度実施事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
8	大和市民活動センターの管理運営	行政 提案型	拠点やまと／ つながり推進課	27

◆令和 4 年度提案事業（令和 5 年～ 7 年度実施予定事業）

	事業名	種類	協働事業者／市の事業担当課	頁
9	家庭訪問型子育て支援 ホームスタート事業	市民 提案型	NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア／すくすく子育て課	30

1. ふれあいの森ドッグラン運営管理

事業名称	ふれあいの森ドッグラン運営管理	
事業者	結の会	
市担当課	みどり公園課	
提案分類	市民提案型	行政提案型
協働事業 経過年数	19年(令和7年度を含む)	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額(注1):	100,000円
	市担当課の執行額(注2):	121,643円
事業の目的	犬のしつけとマナーの向上及び、犬と人との触れ合いを通して会員相互の親睦を図り、ドッグランの運営を介して地域社会に貢献すること	
事業の内容	会員登録説明会の企画運営(グリーンアップセンターにて3か月毎) 毎月第3日曜日に犬同伴の公園清掃(夏季7・8月を除く。今季は9月も猛暑のため中止とした) ドッグランの運営及びイベント企画	
令和7年度事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	2025.06.07(土)	会員登録説明会(於;グリーンアップセンター研修室・コミュニティセンター集会室) 第67回 23組 + 37名 + 11名(参加者+ 役員)
	2025.09.07(日)	第68回 25組 + 36名 + 11名(参加者+ 役員)
	2025.12.06(土)	第69回 12組 + 19名 + 11名(参加者+ 役員)
	2026.03.01(日)	第70回 23組 + 41名 + 11名(参加者+ 役員)
	2025.06.15(日)	定期清掃 雨天中止
	2025.7月~9月	夏季定期清掃中止
	2025.10.19(日)	定期清掃 51名
	2025.11.16(日)	定期清掃 55名
	2025.12.21(日)	定期清掃 雨天中止
	2026.01.18(日)	定期清掃 60名
	2026.02.15(日)	定期清掃 60名 ドッグランイベント 60名参加
	2026.03.15(日)	定期清掃 41名

(注1): 事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2): 市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 多くの参加者による場内整備や定期清掃に取り組むことができました	(コメント) イベント等を通して会員同士の親睦も深まり、定期清掃や場内整備への参加者も増えて施設もきれいに維持できていました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 定期清掃実施予定が毎月第三日曜と決まっていたため、雨天中止のケースがありました これについては今後代替日を設定して、年間12回の実施となるよう計画します	(コメント) 会員登録説明会は、予定通り実施できました。 定期清掃は、猛暑の影響で7月～9月の3ヵ月間は実施できておらず、雨天中止となることもあり、代替日を計画することにより、施設の衛生管理を維持できます。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 草刈りの機材や炎天下の場内整備による飲料の購入で、当初予算をオーバーする面ありましたが、おおむね予定どおり実施できました	(コメント) トータルのには予算内で実施できました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) みどり公園課さんとの責任分担が明確なため、新規登録受付時の個人情報管理はみどり公園課さん、その後の個人情報の取り扱いは結の会で連携をとりつつ行う取り組みができました	(コメント) 市と結の会で役割が明確なため、スムーズに事業が実施できました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
隣接するスケートボードパークからのゴミの投げ入れや、本来禁煙であるにもかかわらずタバコ吸い殻の投げ入れが続いています 隣接して建築されたため、どうする事もできませんが、どのように共存してゆくべきなのかが非常に悩ましいと思っています せめてゴミ箱を設置いただければ、ドッグランへの投げ入れは少しは収まるかと思っています	スケートボードパークについては、管理している財団とも相談しながら、禁煙看板設置、見回りなど可能な限り対処しておりますが、今後も結の会と情報共有しながら、適宜対応を図っていきます。

2. 地域で支え合う「のりあい」を走らせよう

事業名称	地域で支え合う「のりあい」を走らせよう
事業者	地域と市との協働「のりあい」
市担当課	まちづくり総務課
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型
協働事業 経過年数	16年（令和7年度を含む）
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 140,000円 市担当課の執行額（注2）：55,229,000円
事業の目的	地域生活交通の利便性向上のため、移動手段「のりあい」を創出し、運営することによって、地域住民の日常外出機会を増やし、地域の良好なコミュニケーションを育み、住み心地良い地域づくりを目指すとする。
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で支え合う移動手段に向けた取り組みを運営（協働事業協定書） ・ 高齢利用者への福祉対応、運行地域の防犯、交通安全への取り組みを通し、地域住民の交流を深める（具体的事業は、会則の附則による）
令和7年度 事業実施の経過	<p>実施内容</p> <p>（イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください）</p> <p>■「のりあいは、日々毎日が生活交通の事業運営、実施でありますので、活動実施項目ごとに年間の事業実績をまとめて報告します。</p>
	<p>1. 「のりあい」地域交通の運行実績（概数）</p> <p>①運行事業：大和市、相鉄バス(株)、地域協働事業団体の三者による乗合交通の運行（定時、定路線の運行）</p> <p>②運行日数：359日（平日20便数、休日12便数、年末年始休）</p> <p>③利用者数：34,300人（令和7年度概数、6年度比ほぼ同数） 月平均2860人、一日平均96人の利用状況</p> <p>④利用内容：高齢者、身体的弱者で80%、若年者、通勤者20%</p> <p>2. 添乗支援活動</p> <p>①有償ボランティア5名で活動支援実施</p> <p>②平日20便数の内、3便～6便数に1人～2人乗車して、主に高齢者の乗降時、車内での着席等安全補助の支援活動を実施</p> <p>③年間添乗便数：725便数（平日運行便の15%程度）</p> <p>④年間添乗延べ人数：240人・一人平均240便数・月20便数</p> <p>⑤相鉄バス運転手との良好な対話を図り、共に「のりあい」を更に身近な交通として向上させる。</p> <p>3. バス停留所を起点とした運行路上、周辺地域のクリーン活動</p> <p>①3か月に1回全員で全停留所、運行路上、公園等を1時間実施</p> <p>②クリーン活動参加者延べ38人</p> <p>③クリーン活動を通して、地域住民との「ふれあい」を深めている。</p>

4. 地域コミュニティ活性化、「のりあい」利用促進
- ①地域交流会の実施（毎年実施）
- ・利用者、市長他来賓者、自治会役員、事務局、市担当課との懇談、のりあいの現況報告、交流を目的に、6月14日開催65人参加
- ②のりあいニュースの発行（7月以降一時休刊）
- ・毎月1日付で地域10自治会員へ配布（4100世帯対象）
 - ・運行の状況、利用案内、留意事項、運行時刻表等を掲載して利用促進と、「のりあい」交通の利便性向上を図っている。
- ③特定停留所での個別乗降支援、利用者、運転手との挨拶、見送りを実施して交流を図っている。
- ④都度、地域自治会長、役員等と日常的に会話し、「のりあい」運行の評価などを聴収している。
5. まちづくり総務課と日々の事業活動の検討、協議確認を実施
- ①毎月および適時、「のりあい」の運行状況、地域状況、課題等を相互に確認し、協働事業達成に向け、検討、協議を実施している。
- ②特に、「のりあい」課題解決に向け、緊密な連携で適時、事務局とで協議を実施して解決策の方向を共有し確認している。
- ③交通事業である相鉄バス担当者を含めた三者連絡会を適時実施して、運行の現況を確認し、課題、対策を協議している。
- ④のりあい運行に関する状況を都度、のりあい事務局と市担当とで作成し地域に広報している。
6. 「のりあい」組織の議決、進め方、確認
- ①のりあい役員会（のりあい推進事項の協議、最終承認）
- ・3月15日（日）開催、8年度の事業計画、予算等確認し承認
 - ・自治会長10人、スタッフ7人参加で運営
- ②担当国会議（毎月の運行状況共有、確認）
- ・年間12回開催（毎月第4日曜日）参加延べ104人
- ③会計監査
- ・年度の会計（収支）について、2名の監査人により監査実施
 - ・4月12日 実施、関係者5人参加
- ④地域10自治会との連携と相互協力
- ・協働事業運営は、地域自治会の協力、支援が原動力ともなり、10自治会から一定額の協力支援金を受け活動実施している。
 - ・「のりあい」の中間決算状況、年度事業活動報告等を適時、資料として自治会長に配布し、理解と協力、確認を得ている。
 - ・10自治会長と市担当課、事務局との意見交換会を実施し、当面の課題、事業活動の進捗等について相互意見を交わした。
<第1回 5月24日（土）、第2回11月15日（土）>
- ⑤外部有益団体との連携
- ・NPO かながわ福祉移動サービスネットワーク、NPO 全国移動サービスネットワークとの有意義情報交換、協力連携実施。

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ・地域生活交通の利便性向上に毎日定時運行を相鉄バスの協力を得て、継続実施していることに利用者から、感謝と信頼を得ています。 ・高齢者等利用者さんから「のりあい」利用で外出の機会が多くなり、友達も増え、また生活環境もよくなり元気をもらえたと運行の継続を強く要望されている現況です。 ・のりあいニュース等で、日常の運営、運行について地域、利用者が理解されていることが「のりあい」運行の信頼に繋がっています。	(コメント) ・令和5年度後半からの運行本数の増加により交通利便性が高まり、令和7年度の利用者数は、昨年度と同程度になる見込みで推移しております。 ・「のりあい」は、高齢者や身体的弱者の方が利用されることが多く、乗降時や車内での着席等安全補助を添乗員にサポートしてもらうことで、安全に利用できることから、外出機会の増加に寄与しています。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ・事業活動計画に沿った実施により、実施不足事項、課題、反省事項を探り、協議し、改善していく取り組みで、予定（計画）通り実施しています。	(コメント) ・問題点や課題が出た場合も、協働事業者と協議し、予定通りに進めることができました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ・のりあい団体の予算は、地域自治会からの協力支援金、市の負担金で予算計画し、個別の具体的活動実施は、当然ながら予算計画内で執行しています。 実施活動はその都度、評価をしています。 ・予算額減少化で、計画事業の活動実施は、無理をしない、できる範囲内で活動実施を取り組むことを基本にしています。	(コメント) ・予算枠内で事業を実施することができました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日が「のりあい」運行実施であります。三者での運行事業でありますので、大和市（行政）、相鉄バス（交通事業者）、のりあい団体（地域）夫々の役割を明確化して、効果ある交通（運行）を目指し取り組んでいます。 ・交通事業者である相鉄バス運転士の皆さんが、「のりあい」と、運行地域を理解され、また利用者に親切な対応をされて毎日の運行が良好な現況です。 ・地域利用者への交通サービスとしては、他に類を見ない地域乗合公共交通と思います。 	<p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の意見集約やバス停清掃や添乗活動を協働事業者が行い、バスの運行は市が交通事業者に運行を委託することで、スムーズな運営ができていていると考えております。 ・運行内容の見直しを検討するうえで、協働事業者と協力することで、円滑に進めることができました。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
<ul style="list-style-type: none"> ・現状、一部地域、停留所、運行時間帯での「乗り残し」状態が、数年継続発生しています。（7年度乗り残し概数として440人予測）⇒自治会、利用者から強い改善の要望を度々受けている現況。 ・対策として、運行車両の大型化、運行便、時刻等の編成変更等、総合的に検討協議を要します。 事業経費との兼ね合いもあり、複数年度で課題達成を目指して、継続検討、協議していく方向性を早急に確認することが大切であります。 ・「のりあい」組織スタッフの高齢化、減少化が顕著であります。地域内での対策検討中ですが、地域生活交通「のりあい」として持続可能な交通形態について、早急に検討協議を進める必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「のりあい」の利用者は年々増加傾向にあり、それに伴って、乗り残しの問題も常態化している現状です。そこで、来年度から一部の車両を大型化することで、問題の改善を図ります。また、利用者の要望を踏まえた、南ルートの変更を行うことで、利便性向上に寄与します。 ・「大和市財政健全化ビジョン」のもと、持続可能な運行を目指して、効率的な運行と経費削減の観点から、運賃引き上げを行います。 ・協働事業者の高齢化や担い手不足により、この先も同様な体制で持続可能であるかは、検討する必要があると考えます。

3. 生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」

事業名称	生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」	
事業者	NPO 法人 かながわ難民定住援助協会	
市担当課	国際・市民共生課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	16年（令和7年度を含む）	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 10,026円 市担当課の執行額（注2）： 100,000円	
事業の目的	多文化共生社会の実現を目指して、同じ地域に住む日本人と外国人市民が相互理解を深めるとともに、外国人学習者の日本語読み書きのスキルアップと日本の生活・文化・習慣への理解を高めていく。	
事業の内容	上記の目的を達成するため次に掲げる事項を行う。 ①日本語教室の開催 ②ボランティアスタッフの育成 ③成果物の作成とホームページ公開 ④SNS を活用した教室活動の紹介	
令和7年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	R7/6/3	第1期資料検討会 スタッフ4名 市担当課2名
	R7/6/9~24	第1期（1回開催、5回開催見送り） 申込5名中、3名参加
	R7/10/21	第2期資料検討会 スタッフ3名 市担当課1名
	R7/10/27~ 11/18	第2期（1回開催、5回開催見送り） 申込4名中、2名参加
	R8/2/24	第3期資料検討会 スタッフ5名 市担当課1名
	R8/3/2~3/17	第3期（3回開催、3回開催見送り） 申込8名中、5名参加

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 今期は3期とも開催できたが、それぞれの期の3回講座の中では学習者がいなくて開催できない回もあった。 1回だけの参加の学習者や、先期からリピートして受講する学習者もなく、継続学習するのが難しい外国籍の方の事情は何かを考える必要がある。	(コメント) 全体を通じて、参加者が少なかったことや、運営ボランティアスタッフの不足などから、開催自体が当初の予定の3割程度の実施となったことが非常に残念だった。 実際に参加した外国人学習者からは、充実した学習時間を過ごすことができたように見受けられる場面もあった。ただ、読み書きにこだわるあまり、難易度が高いことが否めなかったように感じる。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 検討会を経て、講座の準備はしっかりできた。ただ、学習者が集まらなくて実施できないテーマの講座もあったのは、残念だった。	(コメント) インターネットを通じた予約を実施した結果、申込み者数に対して、35%の人がインターネットからの予約を利用されたことから、今年度より実施した予約フォームの二次元コードを提示することに、一定の効果が見られた。ただ、そもそもの申込者数が少なかったため、周知力そのものや、実施時期などにも課題があったと考える。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 講座は予算内で実施できた。	(コメント) 事業は予算内で実施できた。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか

事業者	市担当課
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 協働により、講座の部屋をシリウスで確保していただいた。 また、学習者を集めるための広報やまとへのつるま読み書きの部屋の講座のお知らせを載せてもらったり、国際・市民共生課の窓口での周知をしていただいて、学習者を集めることを支援していただいた。 このような支援で、私達は教室運営に集中できた。	(コメント) 広報活動については、市の広報誌やホームページ、通訳窓口等を通じて、広く周知したが、全体を通して、参加人数が少なく、講座実施回数が目標の約50%であったことから、十分な相乗効果を得られなかった。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課
今期で協働事業が終了します。 長年に渡り、日本語教室を支援してくださって、ありがとうございました。	団体の活動規模の縮小、実績等を踏まえ、当団体との協働事業としての実施は、今年度で終了することとなった。

4. 地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業

事業名称	地域と学校の連携による大和市立渋谷中学校学校開放事業	
事業者	渋谷きんりん未来の会	
市担当課	図書・学び交流課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	22年（令和年7度を含む）	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 39,350 円 市担当課の執行額（注2）： 6,623,957 円	
事業の目的	新しい公共の創造に寄与することを基本とし、地域住民の生涯学習を推進し、交流できる居場所として渋谷中学校との連携のもと、活力ある住みよい地域となることを目的とする	
事業の内容	<p>1) 会議室、特別教室の市民への貸し出しなどを通じた市民活動の活性化事業</p> <p>2) 地域ニーズに基づいた生涯学習の推進支援事業 ・地域住民の生涯学習の推進、交流の場となる活動及び支援</p> <p>3) 下和田地区の児童館機能、子どもや保育者、中高生、一般などの居場所としての事業 ・地域の人々の憩いの場、学びの場として日々充実した活動ができる場の提供 ・閉校した下和田小学校の思い出を伝え、交流できる場の提供</p> <p>4) 伝統文化・国際交流・環境配慮等に関するイベント企画等 ・日本の伝統文化を伝えるため、地域の方の協力のもとに事業実施 ・地域に生きる外国籍の方々との協力を基本として活動を推進するとともに、下和田の郷への認知に力を入れ、子どものみならず大人についての支援も必要に応じて実施 ・地域の方との協力や学校との連携の中で活動を推進し、環境美化やリサイクル工作、省エネのグリーンカーテン作りなどを実施</p> <p>5) 情報発信事業 ・ホームページや地域回覧用の広報誌、小学生向けのお知らせなどによる情報発信 ・いちょう団地に「下和田の郷通信」翻訳版（ベトナム語・中国語・スペイン語等）の配布、掲示 ・大和市内の学習センター5館に「下和田の郷通信」を掲示</p>	
	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
令和7年度 事業実施の経過		別紙のとおり

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・インフルエンザの流行などもあり、来館者の数が一時的に減ったが、事業の工夫等により、昨年よりも多くの来館者に来ていただくことができた。 ・こども向け事業の中でも工作や館内ディスプレイ等にも積極的に参加してくれる子が増え、新しい支援事業の参入もあり利用者増につなげることができた。	(コメント) ・団体の利用件数及び利用者数は前年度と同程度であり、1階総合学習スペースの個人利用者数は前年度を上回った。 ・年間を通してデジタルクラフトやウクレレ教室など、様々な講座を実施したほか、新規の子育てサークルへの支援を行い、地域の人々の憩いの場、学びの場の提供に努めたため、目標は達成できたと考える。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・事業の募集方法や実施回数、参加人数等について、スタッフ会で実施状況を振り返りながら事業実施につなげることができた。 ・講師の方の体調により中止せざるをえなかった事業もあったが、概ね予定通り実施できた。長く講師を務めて下さった方々に感謝状を贈ることもできた。	(コメント) ・前年度と比較して自主事業・共催事業の実施回数・参加人数は減少しているものの、例年実施しているディスプレイなど、予定した方法により実施し、大幅に回数及び参加人数を増やした事業がある。 ・小・中学生と高齢者など、異年齢の交流が可能な講座が増えるとなお良いと考える。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) ・今年度途中で最低賃金の改定があったが、当初予定していた事業については、ほぼスケジュール通りに進み、予算の範囲内で実施ができた。	(コメント) 予算の範囲内で事業の実施ができた。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのよう
な点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課（※）
（採点） 5・4・3・2・1	（採点） 5・4・3・2・1
<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む外国にルーツを持つ住民の方々への広報活動として、市担当課から、中国語・スペイン語への翻訳の手配をしてもらい、情報が届けられるようになった。 ・ヤマトン健康ポイント対象事業への登録等を支援してもらい、市民の活用・利用増につなげることができた。 ・その他開放業務に必要な消耗品などの支給により、利用者が快適に活動できる場の提供ができた。 ・学校という公共の場を市民が運営・利用するにあたって、課題が生じた場合、市担当課との協力・相談・報告・助言・指導等が円滑に行われ、協働による相乗効果が実感できた。 	<p>（コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な施設運営を地域に密着した事業者が行うことにより、地域に根ざした様々な事業が展開され、地域交流の拠点となるとともに、事業者の求めに応じ行政が支援を行うことで、それぞれの長所を活かした効果的な施設運営がなされた。 ・「下和田の郷通信」の翻訳を手配し、中国語版とスペイン語版を年4回発行した。 ・共催事業を「ヤマトン健康ポイント」の対象事業としたことで、市民の健康づくりに取り組むきっかけの促進をした。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課（※）
<ul style="list-style-type: none"> ・災害・火災・不審者侵入等へのスタッフの対応について行政、中学校との情報の共有が必要。 ・インフルエンザ等感染症の流行に伴う学級閉鎖や学年閉鎖などによる対応について、近隣の小・中学校との情報共有が必要な場合がある。 ・「下和田の郷」から発信する広報の各種、SNS等ツールについての発信方法、ルール作りの検討が必須課題である。 ・運営を担う理事・スタッフの人材確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害や不審者等に対するスタッフの対応（情報共有の流れ等）については、中学校及び教育委員会等と調整していく必要がある。 ・「広報やまと」への「下和田の郷」の紙面掲載が二次元コードのみとなっているため、利用者増加のために紙媒体以外の広報手段（HPの充実、SNS）等を検討する必要があると考える。

2025年度事業実施状況

自主事業																		
対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容	回数	人数	
主に小学生	ディスプレイ	不定期			28日 29日 30日	1日 9日	6日 20日			30日	1日 21日				季節にあわせた飾り付けを利用者と共に行う（七夕飾りやクリスマス飾り等）	24	181	
	アレンジフラワー	土				12日				15日			14日		花を使って自由に表現するアレンジフラワー	3	31	
	デジタルクラフト	日	毎週日曜日												P.Cを使った制作通じP.C使い方や遊び方を学ぶ（ペーパークラフトなど）	30	99	
	かんたん工作	不定期	2日 26日	5日 31日	1日 11日	30日		7日								季節に合わせてかんたんな工作	21	56
	カレンダー作り	不定期	不定期												子ども達と一緒に翌月の予定表を作成し、フリースペースを飾りつける	88	366	
	かき氷	日					3日									スタッフと一緒にかき氷を作って食べる	1	17
小中・一般	みんなで大掃除					27日					7日				スタッフと利用団体の方々と一緒に大掃除	2	24	
	スクリーンを使って	日	毎週日曜日												子どもとスタッフの協力による映画上映会	29	115	
一般	布わらじ作り	水・木				2日 3日									スタッフが講師となり不要になった布を再利用したわらじ作りを行う	2	12	
共催事業																		
対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容	回数	人数	
	おたのしみ工作	日			29日					30日		31日			季節に合わせて材料や作品作りを通して、道具の扱い方なども学ぶ	3	34	
	書初め教室	木										5日			新年の書初めを行い落ち着きと集中力を養う	1	8	
一般	男の料理教室	日		18日			24日			9日			1日		成人男性が一人でも栄養のバランスのとれた食事が作れるような料理講習会	4	35	
	押し花	火			10日						11日				利用団体の方が講師となり、参加者が一緒に押し花を通じて交流を図る場	2	14	
	ウクレレ教室	月(毎週)	4月-6月 毎週(月) 全10回													ウクレレ演奏を通じて音楽や楽器を楽しむ	10	51
	P.Cなんでも相談室	第3(木)	17日	15日	19日	17日	21日	18日	16日	20日	18日	22日	19日	19日	市民や利用団体のP.Cスキルの向上	12	63	
	書道教室	木										5日			写経を通じ集中力や手先の感覚を鍛える	1	7	
	ポタニカルペイント	木			19日										本物の葉に彩色するペイントアートづくり	1	4	
	ポルトガル刺繍	木							21日						ポルトガル地方発祥の毛糸を使った刺繍、手先の運動と、参加者の交流の場	1	5	
	籐で編む工作	木							28日						籐を利用した作品作り	1	9	
	さき織り体験	金									中止				不要になった布を最後まで使い切るエコな教室	0	0	
	フラダンス教室	木(毎週)			中止										音楽にあわせて体を動かす、フラの楽しさを知ってもらう体験会	0	0	
支援事業																		
対象	事業名	曜日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施内容	回数	人数	
中学生	サタデー・チャレンジルーム	土	毎週土曜日												渋谷中学校の先生が行っている生徒への学習支援	26	103	
一般	親子サロンばんだ	木	毎週木曜日												地域の子育て支援団体と行う、子どもとその親の交流広場	39	624	

5. 移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	22 年（令和7年度を含む）	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）17,240,000円 市担当課の執行額（注2）： 177,776円	
事業の目的	ひとりでは公共の交通機関を使えない障がい児者や高齢者などの移動制約者が、外出時の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることを目的とする。	
事業の内容	福祉有償運送の位置づけ。主に車を使い、会員制、予約制で様々な要望に応じて介助付きの移動サービスを実施。通院や入退院、通所、ショートステイ、買物、墓参など。必要に応じて、ベッドtoベッド、車椅子に乗ったままの階段の乗降（複数人に対応）などにも対応。	
令和7年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	4月17日 4月26日 5月10,11日 5月18日 5月25日 5月29日 6月2日 6月9日 6月14日 6月25日 7月1日	<p>利用会員（移動制約のある高齢者や障がいのある方々）に、主に車を使って介助付き移動サービスを実施しました。</p> <p>昨年度からの継続利用会員：261名 今年度の新規利用会員：115名 計：376名 利用回数：6,018回 利用者延べ人数：3,840人 (通院等3,550回、通所等678回、その他1790回)</p> <p>年中無休で電話番を配置。毎日メールで予定表を確認。メール、LINEなども活用しながらメンバー間での意思疎通を行い、毎月、定例会・理事会を開催し、課題解決などを図りました。</p> <p>福祉車両の定期点検・車検・修理。オールシーズンタイヤ装着。</p> <p>必要に応じて講習の受講、内部研修を実施しました。 腎友会の事業撤退により、利用者を引き継ぎました。</p> <p>医療的ケア児通学支援事業が始まりました。 黄色いシートキャンペーンイオンギフトカード受取り 腎友会との話合い 認定運転者講習会（寒川）受講（2名） 市民まつり（コミュニティ・おptime福祉協議会大和の一員） 第28回通常総会（33名） かながわ移動ネット総会・学習会 参加 輸送実績報告書提出（まちづくり総務課） 大和市協働事業報告会 参加 他団体支援（海老名：おでしえ） だれでも掲示板からメンバー募集ポスター外し</p>

7月2日	認定運転者雄講習会（海老名）講師派遣
7月3日	車両保険更新手続き
7月4日	ライフフリー助成中間報告
7月12日	未来機構：ヒアリングを受ける（2名）
7月14日	医療的ケア児通学支援:打ち合わせ
8月24日	JAF 加入手続き（福祉車4台登録）
8月28日	日本財団福祉車両助成申請
8月～9月	全社協在宅福祉総合保障（名簿追加提出）
9月16日	運行担当者会議
9月29日	大和市福祉有償運送運営協議会書面決議
10月1日	福祉車両4台、それぞれの6ヵ月点検
10月5日	労災保険手続き 県に理由書提出（指定NPO更新せず） 共同募金セレモニー
11月2日	N-BOX リコール持込（Honda Cars）
11月18日	認定運転者講習会 講師派遣 受講
11月21日	地域公共交通協議会出席
11月24日	日本財団福祉車両審査通過の通知受領
11月26日	認定運転者講習会 講師派遣 受講
12月6日	消費税中間申告・納税
12月11日	共同募金協力（街頭募金は自粛）
12月12日	日産自動車 助成車両オプション依頼
1月6日	福祉有償運送 軽微な事項変更届（まちづくり総務課）
1月14日	福祉車両3台の駐車禁止除外指定更新手続き
1月	24時間テレビ事務局にハイエース廃車申請
1月29日	24時間テレビ事務局にハイエース稼働状況報告
3月1日	福祉車両3台の車検
3月23日	大和市福祉有償運送運営協議会
3月29日	『ケアびーくる通信 第17号』発行 全社協在宅福祉総合保障更新 日産バネット納車。取り扱い説明を受ける。

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 — 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 移動制約者の社会参加促進を目的とするという共通認識をもったうえで、事業を遂行することができました。会員番号1番の利用者が利用再開。20年来の継続の利用がある一方、今年度も多くの新規利用の入会が続きました。この活動が必要とされていることを実感します。今年度も多くの利用者や家族から感謝の言葉を頂きながら、また、それ以上にこちらが元気をいただきながら、活動を続けられました。	(コメント) 物価上昇・価格高騰の続く中、大変厳しい運営環境となっています。この事業のサービスを必要とする移動制約者（高齢者・障がい者等）の方々に対し必要な対策を取り、個別の要望を聞き入れたうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 関係部署・事業者・ご家族との連絡を密に取り、きめ細やかな、利用者へ寄り添ったサービスが提供できたと考えます。 綿密な打ち合わせを経て、医療的ケア見通学支援が始まりました。 腎友会の撤退に伴い7名の利用者を引き継ぎました。一方、運転者従事者の移行は1名にとどまりました。 市主催の運転者講習会が2回実施され、受講者の中から4名が入会。新たなメンバーの参加は合計7名でした。専任で常時携われる担い手の不足が恒常化しています、このままでは本会の活動の継続が危ぶまれます。 メンバーの拡充が引き続き喫緊の課題です。	(コメント) 事業者は担い手不足等の課題がありながらも、腎友会の解散に伴い、サービスを必要とする方が困ることのないように引継ぎをしていただきました。 また、個々の利用者の状況をきめ細かく把握し、この事業を必要とする方に対して、必要なサービスを提供し事業の実施・継続することに努めていただきました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・3・2・1	(採点) 5・4・3・2・1
(コメント) 一昨年10月1日に改定した料金体系の下で、2年目となりました。見えてきた課題と毎年見直される最低賃金に対応するため、来年度料金の一部改定をするため運営協議会にかけ、協議が整いました。 16年が経過したハイエースの更新のため日本財団の車両助成に応募し、助成が決まりました。3月末にバンネットが納車されました。 概ね予算内での活動ができました。	(コメント) 事業の収支面において非常に厳しい状況下にありますが、移動に制約のある方の身近な支援サービスとして定着していることから、今後も、福祉車両の維持経費の一部負担や駐車スペースの確保、事業の広報などを行い、支援に努めてまいります。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのよう
な点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課（※）
（採点） 5・4・3・2・1	（採点） 5・4・3・2・1
<p>（コメント）</p> <p>市から駐車場と備品の保管場所の提供を受けていることは、会の経営・運営・社会的信用上、不可欠です。新たな担い手の発掘のため、また広くこの事業を市民の方々に知ってもらうためにも市主催の認定運転者講習会の継続を切に希望します。</p> <p>福祉車両利用助成事業に関しても、担当部署と連絡を密に取ることができ、必要に応じ相談にものっていただけて感謝します。</p>	<p>（コメント）</p> <p>広報やまとや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉の手びき」にも案内を掲載し周知に努めています。</p> <p>また、事業者と行政のそれぞれが役割を果たし、疑義やきめ細やかな対応が求められた際にも、事業者と市が密に連絡を取り合うことで、課題の共有を図り、安定した事業が展開されました。</p>

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課（※）
<p>経過等にも記載しているように新規利用入会は115名、月平均にすると約10名近くになっています。ここ数年続いている傾向です。</p> <p>一方で、継続した利用につながらないこともあり、早い段階で外出介助サービスの利用があれば自立した生活につながられたのではというケースもあります。また広報にも課題があります。福祉有償運送のさら更なる周知が不可欠です。</p> <p>また、ベッドtoベッド、車に乗り込むまでの段差や階段など、外出全体をとらえた介助付き移動サービスの理解が進むよう、情報交換や学びの場、人材育成が必要です。</p> <p>重ねて記述しますが、メンバーの拡充が喫緊の課題です。</p> <p>市主催の運転者講習会が今年度も開催されたことを感謝するとともに、引きつづき福祉有償運送を協働事業で実施する意味と必要性を勧奨し、市との連携・理解がより深まることを望みます。</p>	<p>利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化が進んでおり、世代交代や新規メンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている法人ともに共通の課題であります。</p> <p>市担当課として、法人の活動やこの事業が担っている意義について、より多くの市民にご理解いただき、より深く知っていただくためにも、より一層の周知に努めます。</p> <p>また、事業の担い手不足に関連する継続的な課題については、本課を含め関係部署と連携を図り、運転者講習会を端緒として、メンバーの拡充や今後の利用者の外出支援についても考えてまいります。</p>

6. 移動制約者の外出介助サービス事業

事業名称	移動制約者の外出介助サービス事業	
事業者	特定非営利活動法人 たんぽぽ	
市担当課	障がい福祉課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	19年（令和7年度を含む）	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 1,997,904円 市担当課の執行額（注2）： 44,444円	
事業の目的	○外出困難者への介助支援 ・障がい者・高齢者の移動制約者が外出の際の困難や不安感を軽減し安心して社会参加の促進がはかれることを目的とする。	
事業の内容	○特定営利活動有償移動サービス ・介助付きの外出サービス事業を安定して提供すること。	
令和7年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	令和7年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎実績850件程度 ・スタッフ10名 ・定例会（毎月月末開催） ・総会（年1回） <p>障がい者・高齢者など、一人では外出できない移動困難者の方々に、外出する機会を得て頂きたいと考え、これまで事業を実施してまいりました。</p> <p>我々の事業は、通常の公共交通機関の利用が難しい方たちの貴重な移動手段として意義ある活動と認識しております。</p> <p>※現在運転会員6名で実施しています。</p> <p>稼働状況は、各感染症等の影響により、病院、介護施設など、限られた範囲であり、未だ自粛を強く感じます。</p>

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか（目標設定）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・ 3 ・2・1	(採点) 5・ 4 ・3・2・1
(コメント) 各種感染症等への懸念もあり、残念ながら新規利用者の増員が見込まれませんでした。	(コメント) 物価上昇・価格高騰の続く中、大変厳しい運営環境となっています。この事業のサービスを必要とする移動制約者（高齢者・障がい者等）の方々に対し必要な対策を取り、個別の要望を聞き入れたうえで、事業を遂行することができました。

・予定した方法により事業が実施できましたか（実施手法）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・4・ 3 ・2・1	(採点) 5・ 4 ・3・2・1
(コメント) 利用者の減少により収益が見込めず例年より減収減益となる見込みですが、利用者にとって安全で安心した外出サービスを提供できました。	(コメント) 事業者は担い手不足等の課題がありながらも、個々の利用者の状況をきめ細かく把握し、この事業を必要とする方に対して、必要なサービスを提供し事業の実施・継続することに努めていただきました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか（計画性）

事業者	市担当課（※）
(採点) 5・ 4 ・3・2・1	(採点) 5・ 4 ・3・2・1
(コメント) 燃料費の高騰および車両の維持管理による負担が増大していますが、収益減少を見込み事業規模を再考しつつ、事業を継続することができました。	(コメント) 事業の収支面において非常に厳しい状況下にあります。移動に制約のある方の身近な支援サービスとして定着してきていることから、今後も、福祉車両の維持経費の一部負担や駐車スペースの確保、事業の広報などを行い、支援に努めてまいります。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課（※）
（採点） ⑤ 4・3・2・1	（採点） ⑤ 4・3・2・1
<p>（コメント）</p> <p>1.福祉車両券、タクシー券による利用者、及び事業者にとって、資金への援助と成っています。</p> <p>2.一部の車両重量税、駐車場の提供おおいに助かっております。</p> <p>今後も事業者と行政が共通の目的意識をもつことで円滑に事業を遂行できるよう努力しました。</p>	<p>（コメント）</p> <p>広報やまことや障がい福祉課ホームページ、窓口で配布している「障がい福祉の手びき」にも案内を掲載し周知に努めています。</p> <p>また、事業者と行政のそれぞれが役割を果たし、疑義やきめ細やかな対応が求められた際にも、事業者と市が密に連絡を取り合うことで、課題の共有を図り、安定した事業が展開されました。</p>

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課（※）
<p>高齢化に伴い、若返りを図る必要があり、魅力ある組織作りが望む所です。</p> <p>改善のポイントとしては、ドライバーや介助要員の確保のため報酬の見直し、それを実現する運賃改定が検討課題として挙げられます。</p> <p>（運賃改定については、R5.10月に実施しました。）</p>	<p>利用者とともに、事業者の構成メンバーも高齢化が進んでおり、世代交代や新規メンバーの確保が急務であることは、本事業を提案いただいている法人ともに共通の課題であります。</p> <p>市担当課として、法人の活動やこの事業が担っている意義について、より多くの市民にご理解いただき、より深く知っていただくためにも、より一層の周知に努めていきます。</p> <p>また、事業の担い手不足に関連する継続的な課題については、本課を含め関係部署と連携を図り、運転者講習会を端緒として、メンバーの拡充や今後の利用者の外出支援についても考えてまいります。</p>

7. みんなでつくろう安心のまち事業

事業名称	みんなで作ろう安心のまち事業	
事業者	大和女性防犯会	
市担当課	大和市民生活あんぜん課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	16年（令和7年度を含む）	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 0円 市担当課の執行額（注2）：532,000円	
事業の目的	防犯啓発や防犯パトロールを協働事業者と協働で実施することにより、市民の自主防犯意識の高揚と体感治安の向上を目指し、安心して暮らせるまちをつくることを目的とする。	
事業の内容	1 防犯啓発活動の企画、立案及び実施 2 防犯パトロールの企画、立案及び実施	
令和7年度 事業実施の 経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	2025.04.07(月)	新入学児童に対するキャンペーン (引地台小学校周辺) 啓発人数：80人、スタッフ：5人
	2025.04.10(木)	防犯の日キャンペーン(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
	2025.04.15(火)	年金支給日特殊詐欺撲滅キャンペーン(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：14人
	2025.04.25(金)	防犯ゴミ拾い(大和中学周辺 イオンモール大和) 啓発人数：200人、スタッフ：10人
	2025.04.25(金)	歓楽街夜間パトロール(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：13人
	2025.05.10(土) 05.11(日)	大和市民まつり防犯キャンペーン・防犯パレード (引地台公園平成広場) 啓発人数：4400人、スタッフ：13人
	2025.05.19(月)	大和市認知症サポーター養成講座(大和警察署) 「認知症世界の歩き方」受講 スタッフ：14人
	2025.05.23(金)	歓楽街パトロール(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
	2025.06.04(水)	神奈川県女性防犯連絡協議会・県警本部研修会 (県警みなとみらい分庁舎)防犯講話受講 スタッフ 13人
2025.06.13(金)	年金支給日特殊詐欺撲滅キャンペーン(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人	

2025.06.27 (金)	歓楽街パトロール (大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
2025.07.28 (月)	子どもおしごと体験イベント防犯キャンペーン (イオンモール大和) 啓発人数：300人、スタッフ：11人
2025.07.29 (火)	夏休み子ども安全教室 (下草柳コミセン) 啓発人数：35人 スタッフ：5人
2025.09.10 (水)	防犯の日キャンペーン (大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
2025.09.21 (日)	交通・防犯合同キャンペーン 一日警察署長 啓発人数：300人 スタッフ13人
2025.09.26 (金)	歓楽街パトロール (大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
2025.10.11 (土)	安全安心まちづくり旬間 パトロール出陣式 防犯キャンペーン (南林間駅前) 啓発人数：500人、スタッフ：13人
2025.10.15(水)	年金支給日特殊詐欺撲滅キャンペーン (大和駅周辺) 啓発人数：200人 スタッフ：11人
2025.10.17 (金)	一日警察署長・一日警察官キャンペーン (大和駅周辺) 啓発人数：500人、スタッフ：12人
2025.11.10 (月)	防犯の日キャンペーン (大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
2025.11.16 (日)	ふれあい広場防犯キャンペーン (中央一号公園) 啓発人数：500人 スタッフ5人
2025.11.23 (日)	ふれあい広場防犯キャンペーン (南林間小) 啓発人数：500人 スタッフ5人
2025.12.01 (月)	防犯イルミネーション点灯式、一日警察官キャンペーン 歓楽街 (大和駅周辺) パトロール 啓発人数：300人、スタッフ：11人
2025.12.13 (土)	大和市安全なまちづくり推進大会 年末防犯キャンペーン (保健福祉センター) 啓発人数：200人、スタッフ：13人
2025.12.19 (金)	県警本部合同年末年始特別警戒防犯キャンペーン 一日警察署長 (大和駅周辺) 啓発人数：300人 スタッフ13人
2026.01.09 (金)	110番の日・防犯の日キャンペーン (大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：14人
2026.01.23 (金)	歓楽街パトロール (大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人

	2026.02.13 (金)	年金支給日特殊詐欺撲滅キャンペーン(大和駅周辺) 啓発人数：200人 スタッフ13人
	2026.02.25 (水)	女性防犯会 バス研修会(横浜地方裁判所) 裁判傍聴 スタッフ14人
	2026.02.27 (金)	歓楽街パトロール(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人
	2026.03.02 (月)	防犯講演会受講「財産と命を守る防犯マニュアル」 佐々木成三氏(シリウス) スタッフ8人
	2026.03.05 (水)	県警本部・県女性防犯連絡協議会主催研修会 (大和警察署) 啓発人数50人 スタッフ：13人
	2026.03.10 (火)	防犯の日キャンペーン(中央林間駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：14人
	2026.03.27 (金)	歓楽街パトロール(大和駅周辺) 啓発人数：200人、スタッフ：11人

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2)：市担当課の執行額 = 市負担金 + その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか (目標設定)

事業者	市担当課 (※)
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 防犯キャンペーンや夜間の歓楽街パトロール等を積極的に実施しました。 加えて、今年度は子ども安全教室等、子どもに対する防犯活動を多く実施したほか、県警本部や大和警察署の交通課・地域課、他防犯団体等とも合同で啓発活動が実施できました。	(コメント) 協働事業者との防犯啓発活動や防犯パトロールは、犯罪の抑止や市民の防犯意識向上に一定の効果があったものと考えます。 本市の刑法犯認知件数は、前年比で増加していることから、安心して暮らせるまちをつくるために犯罪情勢に応じた各種防犯活動を継続していきます。

・予定した方法により事業が実施できましたか (実施手法)

事業者	市担当課 (※)
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 防犯キャンペーンやパトロール、見守り活動などについては、概ね予定した方法により実施することが出来ました。	(コメント) 夏場の酷暑や悪天候等により、防犯パトロール等を実施できない日もありましたが、概ね予定通りに実施することができました。 今後、夏場の酷暑は継続すると思われるので、夏季の各種活動方法について検討していきます。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか (計画性)

事業者	市担当課 (※)
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 啓発品や郵送料の値上げに対し、配布物品や防犯活動の内容の見直しを行い、予算通りに事業が実施出来ました。	(コメント) 物価が高騰していますが、予算の範囲内で活動を実施することが出来ました。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのよう
な点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課（※）
（採点） ⑤・４・３・２・１	（採点） ⑤・４・３・２・１
<p>（コメント）</p> <p>協働事業に参画することで、市を通じて他団体との交流も生まれ、防犯活動の活性化や会員個人の活動のモチベーション維持に繋がっていると感じています。</p> <p>また、連携することで防犯に関する新たな知識が得られ、さまざまな啓発活動に活かせるので、効果的な活動に繋がっているものと認識しています。</p> <p>今年度は、特殊詐欺被害に高齢者が多いことを受け、市にご手配いただき、人生１００年推進課による「認知症サポーター講座」を受講しました。認知機能と詐欺被害の関係について学ぶことが出来ました。</p> <p>今年度の協働事業負担金を活用したバス研修会では、横浜地方裁判所での裁判を傍聴し、実際に被告人が厳しく裁かれる姿を見て、闇バイト等で安易に犯罪に手を染めてはいけないことを改めて実感しました。研修内容を踏まえて今後の防犯活動の糧としていきます。</p>	<p>（コメント）</p> <p>市民で構成された団体である協働事業者との活動は、市民目線での意見や考えを得ることが出来るため、各種施策を実施するうえで有意義であり、団体の構成員も最新の犯罪情勢や対策を知ることによって被害防止を図れるほか、他の市民への口コミによる防犯情報の拡散にも期待できるため、市民の防犯意識の向上に効果的であったと考えています。</p>

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課（※）
<p>特殊詐欺は、ニセ警察官等新しい手口で高齢者だけでなく、中高年まで被害が広がってきました。</p> <p>また、『闇バイト』関連の犯罪も増えつつあるので、これからも市と連携して、最新の犯罪発生状況に応じた防犯活動をしていきたいと思えます。</p>	<p>市内では、特殊詐欺や乗り物盗の発生が増加傾向にあり、特に特殊詐欺に関しては手口が日々巧妙化していることから、前例踏襲としない各種防犯活動が必要と考えます。</p> <p>今後も犯罪の抑止と市民の体感治安の向上のため、協働事業者と連携を密にした活動を実施していきます。</p>

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5:できた 4:ややできた 3:どちらでもない 2:ややできなかった 1:できなかった)

・目的を達成することができましたか(目標設定)

事業者	市担当課(※)
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 各イベントや計画行事を 全員チームワークで遂行できた。以前から比べて年々増える業務に対して量的にも質的にも対処できている。種々業務に関してはプログラムに支えられてリモート勤務も含め 効率良く遂行している。部室交換のタイミングでも、団体レコードの確認、資料催促、料金請求など同時に 短期間効率よくプログラムを使い支障ない処理ができた。	(コメント) 活動団体の居場所としての市民活動ブース「部室」や市民交流スペースを活用し、各種イベントなど計画的に実行していました。指数表示にも表れていますが、市民交流スペースでは前年より多くの方が利用されています。窓口・受付等の業務において、金銭出納帳や部室管理などプログラムを構築したことで増加した業務の効率化を図り、協働事業を実施しました。

・予定した方法により事業が実施できましたか(実施手法)

事業者	市担当課(※)
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 出費を削る目的で、従来から行っている基本的に“外注をしない”“各人のスキルを向上させ自分達でやる”を意識して行っている。コロナ禍での経験を活かし リモート業務 ZOOM 交信やハイブリッド会議など 役立つものは引き継いで業務に取り入れる様になった。	(コメント) スタッフ各人のスキルに着目した業務分担をしていました。コロナ禍で培ったスキルを活かして計画通り活動することができていました。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか(計画性)

事業者	市担当課(※)
(採点) 5・4・③・2・1	(採点) 5・④・3・2・1
(コメント) 業務費(支出)に対する利用負担金(施設費・機器利用費など)が大幅に減少し、反面 物価高・人件費の上昇環境下でのやり繰りが続く。現在もボランティア精神を以って業務は行っているが、今期協働の任期を締めて、如何に引き継ぐかに苦慮している。プログラム化を中心に仕事の効率化は計ってはいるが、勤務シフトが組めない、常勤者の居ない体制問題に直面している。	(コメント) 管理費及び最低賃金の上昇に伴う人件費の増加等により、厳しい状況ではありましたが、業務を効率的に遂行するために工夫をしながら事業を実施することができていました。今後、協働事業の中・長期的な活動に向けて、双方で協議を行っていきます。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのよう
な点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課（※）
（採点） 5・4・③・2・1	（採点） 5・④・3・2・1
<p>（コメント）</p> <p>協働として 双方の特徴、利点活用を意識して業務遂行をしようと試みるが、双方の人材不足で以前の様な協調体制は欠けてきている。先々の中期、長期的な企画が無い中、短期的な活動に追われている気がする。また“継続”を柱に動く協働事業を目指しているが、先々を乗り越えていく体制が出来ていない。（例えば 部室請求・会議室予約・勤務スケジュール・ロッカー料金・広報紙など）既にシステムは先々、何年ヶ分はカバーしているが担当者の居ない状態。</p>	<p>（コメント）</p> <p>市民活動やボランティアの活動希望者等に対して、市民目線でのアドバイスや情報提供をすることができていました。</p> <p>双方人材不足ではありますが、定期的な会議や日々の連絡を重ねることによって協働による事業運営が可能となっております。</p> <p>市民活動センターと市が協働し、地域課題に取り組む拠点として役割を担っていました。今後も新たな相乗効果を生み出すために協働を推進していく必要があるものと考えています。</p>

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課（※）
<p>双方 業務に追われ、任期後の引継ぎ体制をお互いに検討していく余裕も時間も無い状態。</p> <p>業務モラルを保ちながら 新型コロナ禍を乗り越えてきたが、実態面からみると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを発揮できる環境でない。 ・2人体制を組めるスタッフ数が保てない。 ・経験年数の短い新人が多い ・在宅業務移行など年齢に伴う事象 <p>勤務体制については 労働保険基準日数と“半日ベース勤務”が混じった複雑なシフト体制を組んでいる状況。</p> <p>設立当時から“常勤者の居ない”アルバイト形式時間給の体制を続けているが、これまでの経験を生かしながら次期継続体制に引き継いで行きたい。</p>	<p>スタッフの高齢化やスタッフのスキルアップ、団体のリーダーとなる人材の育成等が課題となっています。</p> <p>次期協働事業の継続体制について双方で話し合いを重ねながら、センター管理運営を「協働」（横のつながり）を意識し実施してまいります。</p>

9. 家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業

事業名称	家庭訪問型子育て支援ホームスタート事業	
事業者	NPO 法人ワークス・コレティブ チャイルドケア	
市担当課	こども部すくすく子育て課	
提案分類	市民提案型 ・ 行政提案型	
協働事業 経過年数	6 年（令和7年度を含む）	
令和7年度 決算予定	事業者の負担額（注1）： 954,024円 市担当課の執行額（注2）： 200,000円	
事業の目的	家庭訪問型支援活動を推進し、子育て中の親の負担軽減、親子の精神的安定を図る。	
事業の内容	6歳未満の子どもがいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が、週に1回2時間程度訪問し、傾聴や親と一緒に子育てや外出をする子育て支援ボランティア活動。 市等が実施する様々な子育て支援施策が上手に利用できない、支援が届いていない、支援の隙間で誰かの手助けを必要としている「気になる家庭（虐待やトラブル等が発生していないが、ストレスの高い孤立家庭）」に支援を行う活動。	
令和7年度 事業実施の経過	実施日時	実施内容 (イベント参加者数、スタッフ人数も概算でご記入ください)
	R7.4.1 ~R8.2.28	訪問ビジター数：26名 訪問オーガナイザー数：3名 利用申し込み数：61件 実際に利用した件数：60件 (うち双子のいる家庭 3件) 訪問回数延べ：614回 ●南関東エリアホームスタート協議会研修&交流会 &ビジターデー 令和7年7月12日 12時45分~17時00分 令和7年7月13日 9時45分~12時30分 参加8スキーム(神奈川県・静岡県・山梨県・長野県) ・講演講師：山梨県立大学 林 知然先生 「現場から感じる地域でできる虐待等の予防について」 ・講義の聴講、グループ討議 ・幹事：ホームスタートゆうゆうゆう(山梨県笛吹市) ・協力：静岡県内のスキーム ●ホームビジター養成講座 令和7年10月15日~12月3日 10時~15時30分 参加者2名 ビジター登録者2名 ●特別講義 「問題や悩みのある家庭への理解」 講義講師 すくすく子育て課 金田主幹

(注1)：事業者の負担額 = 協働事業にかかった全費用 - 市負担金

(注2)：市担当課の執行額＝ 市負担金 ＋ その他協働事業に要した費用

◆令和7年度の協働事業をふりかえり、自己採点し、コメントを記入してください。

(5：できた 4：ややできた 3：どちらでもない 2：ややできなかった 1：できなかった)

・目的を達成することができましたか (目標設定)

事業者	市担当課 (※)
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 利用者からは「とても助かった」「上の子の時から使いたかった」「大和市に引っ越してきてよかった」「また使いたい」「2クール目も使えますか」「ビジターさんに感謝です」などの言葉を聞くことができた。また「夫と子育ての話ができるようになった」「実家の親が来てくれるようになった」という言葉もあった。	(コメント) 核家族化、地域の希薄化による中で、ボランティアが訪問することにより、子育て家庭の孤立感を緩和することに役立っている。

・予定した方法により事業が実施できましたか (実施手法)

事業者	市担当課 (※)
(採点) 5・④・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) 一年を通して、利用家庭も訪問ボランティアもいろいろな体調不良との調整をしながらのスケジュールだったので、日にちが開いてしまう場合もあった。 2時間という枠の中で、ビジターも工夫し、利用者への寄り添いを心掛けていた。ほっとできる時間、楽しい時間を6回訪問できていた。 また、月1回の交流会では、訪問時の出来事を報告しお互いに共有していた。 迷った事や困ったこと等はお互い意見を出し合い工夫していくことで、安心して訪問できるようになっていた。	(コメント) オーガナイザーの調整や工夫により、ビジターにも利用家庭にも互いに負担の無いように訪問ができた。 重い症状や病気を抱え、不安を感じる家庭にも、ビジターご自身が寄り添いを心掛け、それぞれの家庭に則し、一人ひとり丁寧な対応・訪問を行うことができた。

・当初の予算のなかで、事業が実施できましたか (計画性)

事業者	市担当課 (※)
(採点) ⑤・4・3・2・1	(採点) ⑤・4・3・2・1
(コメント) ビジター養成講座の内容も充実し、すでにビジター登録している人も聴講の意思があれば参加できるようにした。しばらく訪問活動をしていないビジターにとっても意義ある講座となっている。 訪問活動のビジターの移動負担を少なくするように工夫できた。	(コメント) すくすく子育て課家庭こども相談係や母子保健係の保健師による研修で、訪問活動の意義や立ち位置、自身の活動を振り返り、訪問の成果や貢献度を実感することができたのではないかな。 市の当初予算200,000円で実施できている。

★協働による相乗効果がありましたか（協働の効果）、また、協働事業による実施のどのような点がよかったですか（※コメント欄に記入ください）

事業者	市担当課（※）
（採点） ⑤・4・3・2・1	（採点） ⑤・4・3・2・1
（コメント） 利用申し込みをしようかな、と思ったきっかけが、保健師による家庭訪問や健診時の説明など、の方が多かった。 Instagramなどでスキームとして広報はしているが、協働であることで情報をより近く伝えられている。 協働であることで利用者にも安心してもらえる	（コメント） 専門職である母子保健系の保健師による全戸訪問時、乳幼児健康診査時、プレママプレパパ教室時での案内が、安心して申し込みできるきっかけとなった。 養成講座などの会場も、市の協働事業によることから、行政の優先予約枠を使用することができ、費用を抑えることの一因となっている。

・今後の課題や改善事項等（自由記述）

事業者	市担当課（※）
支援するビジター（訪問ボランティア）の獲得のためにも、利用者、支援者の声を身近に伝えられるような広報をする 初産妊婦さんにも寄り添えるように、ビジターも研修をし、訪問ボランティアの幅を広げる	市民への周知と利用者の増。また、利用者増を見込み、訪問ボランティアの獲得と同時に、事業所の体制強化を図る必要がある。



大和市イベントキャラクター ヤマトン



大和市イベントキャラクター ヤマトン

協働事業に関するお問い合わせは

大和市 つながり推進課 市民活動サポート係

☎046-260-5103

大和市民活動センター

☎046-260-2586